

○タチナミガタウメノキゴケ (新称) 日本に産す (黒川 遼) Syo KUROKAWA:
Parmelia parahypotropia (Parmeliaceae, Lichenes) new to Japan

タチナミガタウメノキゴケ (新称) は台湾固有種として, Culberson (1973) によって記載されたが, その後オーストラリアのクィーンズランドやアフリカのケニアからも報告されている。柏谷博之君の小笠原での採集品, および天野鉄夫氏の琉球の採集品がこれにあたることから, 最近になって判明したので, 報告する。斜上した裂片の裏側に顕著な白色部があり, その裂片の頂端部に粉芽をつけるところから, 一見してナミガタウメノキゴケ (*Parmelia austrosinensis* Zahlbr.) を思わせるが, 葉縁にシリアがあること, 地衣体の髄が PD で橙赤色を示し, レカノール酸ではなく, ノルスチクチン酸, サラチン酸, ガルピン酸を含む点で, はっきり区別できる。

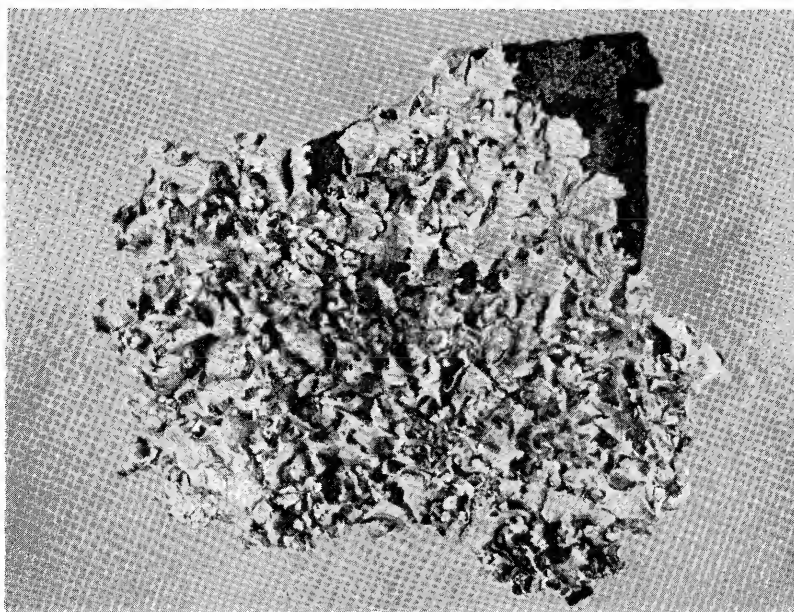


Fig. 1. A specimen of *Parmelia parahypotropia* collected in the Bonin Islands ($\times 1$).

Parmelia parahypotropia was described by Culberson (Bryologist 76: 29, 1973) as a species endemic to Formosa. Two Japanese specimens of *Parmelia*, the one from the Bonin Islands and the other from the Ryukyu Islands, are identified with the present species, because of the presence of terminal soralia and sub-ascending lobes with distinct white lower surface and the production of atranorin,

norstictic acid, salacinic acid and galbinic acid, which constitute an unusual combination of secondary products. This species has been reported from Moreton Bay, Queensland, Australia by Stevens & Rogers (Proc. Roy. Soc. Queensland 90: 40, 1979) and from Kenya, East Africa by Krog & Swinscow (Bull. Brit. Mus. (Nat. Hist.) 9: 198, 1981). Thus, the distribution range of the present species includes Japan, Formosa, northeastern Australia, and eastern Africa.

Specimens collected in Japan. Bonin Islands, Chichijima Island, Miyanohama, on bark of *Calophyllum inophyllum*, H. Kashiwadani 14025 (TNS). Ryukyu Islands, Senkaku Retto, Uotsuri-jima, Byobuiwa, on rock, T. Amano 8275 (TNS).
(国立科学博物館 筑波実験植物園)

□土井美夫：広島県植物目録 (Doi, Y: Enumeratio plantarum in Praef. Hiroshima sponte nascentium) 148pp. 1983. 博新館，広島。¥3,500. 著者は1924年以来1941年まで鹿児島県伊集院中学で教職につき，その間に薩摩植物誌など九州南部を主とする多くの植物分類・地理学的研究を発表していることは広く知られている。著者が1941年に広島市および広島県下の教職に転じて以来，郷土広島県の植物調査に専念し，その粘り強い努力の結果がここに手堅く本書にまとめられている。シダ植物から双子葉植物まで科別に配列され，学名，和名，県下の産地が記されている。基礎にした標本は約1万点で，著者が最後に勤務した広島市，鈴ヶ峰学園女子高校に収められている。なお，巻末に初島博士の鹿児島県植物目録に追加すべき植物のリストが10頁分ある。広島・鹿児島のリスト中には新学名が少し発表されているが，これは裸名で，付記の中に日本語で簡単に説明されている。巻末に著作目録および略歴がある。著者は今満83歳を越えられるが，ますます御元気であるように祈る。
(津山 尚)

□横内文人：長野県植物ハンドブック 433 pp. 1984. 銀河書房，長野。¥3,500. 前半は第1部「地域別の植物」で，58箇所の植物のリストが奥山春季氏の日本植物ハンドブックにならって記されている。第2部「郡(市)別植物目録」では，全植物を50音順に並べ，郡単位に存否のマークをつけ，異名，主要産地などが記してある。最後に父君，横内 斎 (1983)「信濃植物誌」の追加訂正が付け加えられている。横内親子二代の調査の集大成で，今後便利に利用されるであろう。
(金井弘夫)